

公孫樹

2022年11月発行
第130号
浄土宗慶蔵院
伊勢市小俣町元町1211
TEL0596(22)3726

今年も銀杏が豊作でした。「大念仏」への参集・念仏行脚協賛の皆さんに、もらっていたいただきました。今後9日、23日の地藏堂開帳日にお参りされて御祈願された方も、銀杏の三合袋をお授けします。詳しくは別紙をご覧ください



西里定一 作

落語会、「大入り満員御礼」

毎月、第二水曜日、午後七時から「一会館」で開催の「いちご亭」落語会は、大入り「満員御礼」の状態：好評です。十一月で七回目となります。覗いてみようと思われる方は、早い目においでいただき、席を確保してください。住職は前座で「法話」を担当、温かい応援をいただいで語りの勉強をさせていただいています。

東日本大震災で一急発起して、今年の三月まで続けてきた水曜日朝の「辻説法」は、五百回を以て打ち切りました。そして四月から落語会が始まりました。他流試合のようなつもりで「前座の法話」に挑戦しています。もちろん歯が立ちません。足元にも近づけません。一言一句をおろそかにすることなく、無駄のない言葉が映像化しているお二人の落語から学ぶことが沢山あります。毎回刺激をいただいています。今度こそ：よりましなものに：と工夫するのですが、遅々として成長できていません。まだまだです。しかしそう言っていたら何時になってもできないでしょう。いまの状態、そのままを公開させていただくことにしました。

勉強のために動画に収めてもらって来ていましたが、これが有志の方の「協力を得て、編集され「伊勢慶蔵院」No. youtube」とインターネット上に配信してもらえようになったのです。「辻説法」は若山墓地まで足を運んでもらわなくてはなりません。暑い日も寒い日もありません。これからはネットでも見ていただくことができます。編集も美しく工夫されています。

この十数年間のあいだに出会った出来事、その都度「辻説法」でリアルタイムに語らせていただいた内容を、十五分の「法話」という形に整理してお話しさせていただいています。何度も動画を見直し、聞き直し、検討しなおしています。まだまだ不十分なのですが、南無阿彌陀仏と称える者は、必ず阿彌陀様からの「お育て・お導き・お護り・お救い」を今の今から頂戴できるということを、実体験に基づいてお伝えしていきたいと願っています。そんな思いから公開させていただきました。どうぞご覧いただくことに、「いちご亭」にもお出かけください。

11月の行事予定



2日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 午後7時～
9日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～ 一会館にて 無料 おひねり歓迎
16日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費 500円
23日(水)	地蔵講	午後1時半～3時
9日・23日(水)	地蔵堂開帳・ご祈願受付	午後1時半～3時
5日・19日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
13日(日)	子ども会	午前10時～一会館にて
12日・26日(土)	英語歌クラブ 講師 八木和美先生	午後1時～3時 一会館にて 参加費1回 500円 テキスト月 500円
10日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一会館にて 参加費1回1000円
11日・25(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 大人500円 一会館にて

慶徳院豆知識

②



十月もまた末となりました。時の早さに驚かされます。今年はこのほか長雨が多かったと思います。前線が長々と日本列島にまつわり続け、豪雨は、土砂災害をあらゆるこちらにもたらしました。被害にあわれた方々に「申し訳ございません」という気持ちでいっぱいになります。

あきらかに温暖化が原因と思われる災害。どうやら私たちは、あれもこれもと需要を拡大し、ものをどんどん使い捨て、便利さと快適さのみを求め、これを良しとして生きてきました。その付けが回ってきたように思います。すこし立ち止まって考えてみる必要があります。

過ちは過ちとして爽やかに 虚子

八十五年も前のことになりましたが、よく椎の実を拾いに行きました。生でも食べました。ドングリはコマに…、茨の赤い実を手のひら一杯に集め…、オニヤンマを追いかけてました。勉強はいつしていいのでしょうか。それでもいつの間にか背丈は伸びていました。

虚子の心、「爽やかに」を受け止めたいものです。愚痴をいうのではなく、責任を他に向けるのではなく、私たちは、世の中の「健康」や生き方の「健康」というものを取り戻さなければなりません。…爽やかに…。

「誰かさんが、誰かさんが、誰かさんが見つけた。小さい秋、小さい秋、小さい秋見つけた…」と。

(栄子)



おしらせとおねがい



浄土宗新聞を無料で お渡しします！！

11月号読みどころ

8ページ「この世、あの世の情景」…今回は芥川龍之介の「蜘蛛の糸」の話です。お釈迦様が極楽からたらししてくれた蜘蛛の糸、登っていた男の一言で糸が切れ、もとの地獄へ…という有名な話。その時のお釈迦様は、「悲しそうな顔」をして「浅ましく思召された」というのです。

これが阿弥陀様であったらどうなっていたらうか。芥川龍之介は、極楽の阿弥陀様を娑婆世界におられるお釈迦様に置き換え、この話を成功させたというのです。



(面白かったらおひねりをお願いします！)

第2水曜 九日 午後7時

出演 慶蔵院「一会館」にて

法話

慶蔵院住職

落語会「いちご亭」

無料で

TEL 0422-24-1111

銀杏の葉境内を掃く檀信徒

奥田 悦生

(「知恩」誌十一月号「柳壇」に掲載)

子ども会のご案内

11月13日(日) 10時より…一会館にて。

オイリュトミーによる表現活動により「スイミー」の魚になってもらいます。指導はルーマニアから帰国された佐々木夫妻。奥さんはルーマニアの方です。松本志摩さんの紹介です。はじめと終わりにバッハの平均律プレリュードとミュゼット二長調のピアノ演奏があります。ピアノ演奏は堀響介さんです。

※後期分護持会費の納入よろしくお願ひします。

十一月九日(水)、二十三日

(水)の午後一時半から三時ま

での二回、**地蔵堂**を開帳し、別

紙のご案内のように、お詣りいただいた方の御祈願を務めさせていただきます。慶蔵院の「身代わり地蔵尊」のご利益をどうぞいただいでください。二十三日は、地蔵講の皆さんがご詠歌を唱えていただいています。従来の地蔵さん回向「家内安全」の申し込みは五百円です。きつ

成道会の予告!!

十二月十一日(日)

午後一時

出演

慶蔵院住職

(法話)

山添真寛上人(人形芝居)

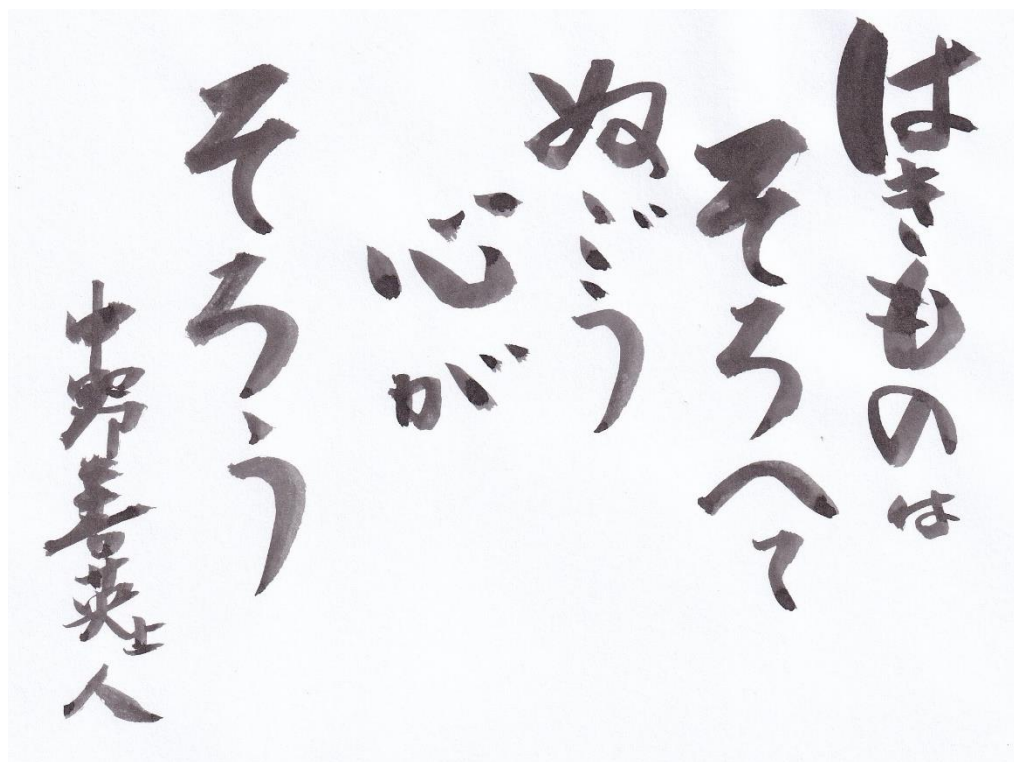
佐藤順晋上人(落語)

住職の健康回復への道のり(十)

十月に入り、睡眠時無呼吸症候群、二回目の検査をしていただきました。前回は、一晩に十八回止まっていた呼吸が十一回に減っていました。また酸欠状態になっている数値の記録が十一回から二回になってきていること、徐々に良くなってきていることがデータからも証明されました。引き続き健康体づくりをめざして努力してまいります。

適時・適食の基準が難しいのです。お茶碗を一回り小さくし、それに六分目までのご飯としているのですが、何かふとした際に、油断して食べ過ぎてしまつたのです。おいしそうなお弁当をいただいたり、いろんな種類のお菓子が目の前にあったり…。

先日、かなご先生がお腹に手を当て「こちらとこちらとは、温度に差があります。わかりますか」と…。「右が冷たいですか」と私。「左です。わからないですか。測ってみましょうか…」測定した表面温度は、右は34、5度。左は32度でした。体温は36.5度なのにお腹は低いのです。八尾に通い始めた時は22度だったのですが…。左の腸に食べ物が留まっています、冷えの原因となっているそうです。何をどれだけ食べたか…、体が疲れているときには内臓はもっと疲れている…。その時は食事の量を減らすことに注意を払う。これが適量となるわけです。体調や年齢によって適量は変化することを知らなくてはなりません。



なぜ、これほどまでに地藏信仰のことを思うようになったのか。日々のお念仏、大念仏の興隆を願い続けてきた中から、同時に、地藏信仰のことが大切だと思ふようになってきた。きっかけは地藏講の存続をめぐる、男性詠唱隊と地藏講「女性陣との「対策のための交流」がはじまったことによる。

おかげさまで地藏講は女性四名で毎月第四水曜の一時半から地藏講の日と定めて活動を再開している。地藏講への参加を希望する男性もある。

時を同じくして地藏尊に当病平癒を祈願する家族が増え、早朝、夕方を問わず、数軒の家族がお詣りされている。またお地藏さんの水を掘ろうと、辻井さんが井戸を掘ってくれている。

歴史的に見ても慶蔵院には地藏堂が置かれ、八月二十四日の地藏盆で「かんこ踊り」が行われ、その念仏踊りで初盆精霊を送ってきた。だから地藏信仰の根は深い。地藏堂は、安永二年（一七七二年）に建てられており、小さな地藏菩薩坐像を大きな厨子に安置してお祀りしている。この地藏さんがなぜ「身代わり地藏」と呼ばれるようになったのかは伝わっていない。しかし自分自身の無明の間を、お地藏さんに照らしていただいて心が開かれ整っていく…。信仰を通して自分の身体・心が変わっていくことの「身代わり」ということを、ご先祖は私たちに伝えたかったのかもしれない…。信仰を深めることで「身代わり」を実証していきたいものだと思っている。

横井久美子は「魂の響き、こげ唄」に魅せられて真剣に弟子入りを考えたことがあったという。そのときの聞き取りをもとにしてつくられた歌が「赤い椿と青いげんぼし」である

「闇を背負って七十年 好きで始めた商売じゃない
旅はそりゃきついもんさ ただ私らの歌をききたいと
待ってる人が多勢いた…人に情けかけていれば
いつかいい事 あるだろさ…」

お地藏さん信仰を深め、祈願し、いい事を探ろう…。